

懐かしの昭和の風景

—北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」—

博物館の3階フロアに一步足を踏み入ると、目の前にあるのは、愛称にある博物館名からは、ちょっと想像することのできない光景が広がる。

昭和日常博物館は、北名古屋市歴史民俗資料館の別称で、その前身は、1990(平成2)年に開館した師勝町歴史民俗資料館である。資料館では、縄文時代からの民具、農具などを展示してきたが、1993(平成5)年から展示内容を戦後に切り替え、電化元年(昭和28年頃)から大阪万国博覧会(昭和45年)までとその前後のあらゆるモノをあつめて、「くらしの変化をモノで残していく」をコンセプトに暮らしを伝える資料15万点(寄贈・一部寄託)を所蔵している。

ジュースの瓶2,300種類約3,000本、ホーロー看板4,500枚(佐溝コレクション)、紙類・広告関係3,000点、他多数と枚挙にいとまがなく、「昭和」という大きなテーマでのコレクションはここだけである。コレクションの主体が企業の製作品・商品であるので、企業ミュージアム的なところがある。

昭和日常博物館の建物の1階と2階は図書館になっている。その2階のロビーに、昭和の暮らしの資料に加え、地域の歴史・文化に関わる資料を様々なテーマで展示、紹介するトピック展示コーナーが2016年に新設された。土器や電化製品などのトピック展示である。

3階の展示は、昭和の町並みを再現、庶民の暮らしと生活の場面や小売店の場面と店先の情景を見せる展示がある。暮らしのシーンをタイトルにしての展示や電化以前と電化以後の展示などがあり、さまざまな「昭和」のモノが所狭しと並んでいる。

2016年、「暮らしとモーターゼーション」のテーマで地下駐車場の一角に車両展示コーナーが新設された。その場にふさわしく、昭和の自動車・オートバイが展示されている。

2006年、西春日井郡西春日町と師勝町は、合併し北名古屋市として発足した。同時に、師勝町歴史民俗資料館は、北名古屋市歴史民俗資料館と名称を変更した。北名古屋市歴史民俗資料館の別称の「昭和日常博物館」は、1997年の展覧会のサブタイトルで使われた「昭和日常博物館」が、2006年に北名古屋市として発足した折に、北名古屋市歴史民俗資料館の愛称を「昭和日常博物館」と条例で定め、正式名称(別称)となっている。

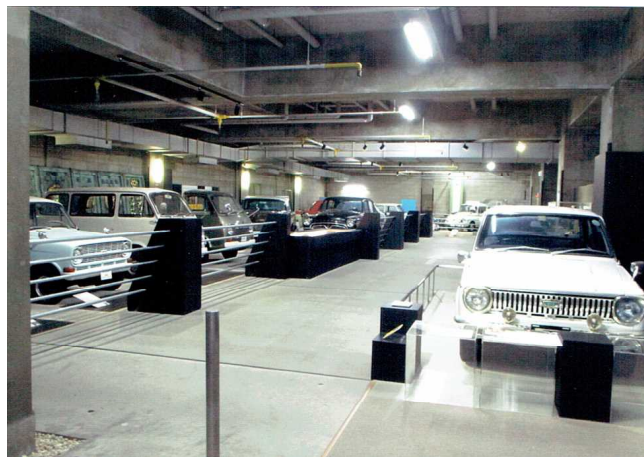


昭和日常博物館（北名古屋市歴史民俗資料館）

所在地：愛知県北名古屋市熊之庄御櫛53
 開館時間：午前9時～午後5時
 休館日：月曜日、館内整理日（毎月末日）
 月曜日が休日の場合、翌日
 アクセス：名鉄・西春駅より徒歩20分
 電話：0568-25-3600



3階の「昭和」の町並みを再現した展示



地下駐車場の「暮らしとモーターゼーション」の展示

(野村千春)